# 平成２６年１月　岡山市教育委員会定例会　会議録

| | | |
|---|---|---|
| １　開　　催　　日 | 平成２６年１月２８日　（火） | |
| ２　開会及び閉会 | 開　　会　　１５時 ３３分 | |
| | 閉　　会　　１７時 １０分 | |
| ３　出　席　委　員 | 委　　員　　長 | 塩　田　澄　子 |
| | 委　　員 | 曽　田　佳代子 |
| | 委　　員 | 東　條　光　彦 |
| | 委員（教育長） | 山　脇　　健 |

４　会議出席者

| 職　　名 | 氏　　名 | 職　　名 | 氏　　名 |
|---|---|---|---|
| 教育次長 | 橋　本　拓　治 | 統括審議監 | 佐々木　辰　昭 |
| 審議監（学校教育担当） | 天　野　和　弘 | 審議監（生涯学習担当） | 直　本　正　明 |
| 教育企画総務課長 | 長　瀬　尚　樹 | 指導課長 | 堀　井　博　司 |
| 生涯学習課長 | 丸　川　康　一 | 文化財課長 | 乗　岡　　実 |
| スポーツ振興課長 | 畑　　太　志 | こども企画総務課課長補佐 | 中　吉　浩一郎 |
| 事務局（教育企画総務課課長補佐） | 高　木　　宏 | 事務局（教育企画総務課主任） | 宗　田　朋　子 |

５　議題及び結果

第１号議案　平成２６年度全国学力・学習状況調査への対応について　　原案可決

６　教育長等の報告［平成２６年１２月４日（土）～平成２６年１月１７日（金）］

| | | |
|---|---|---|
| 12/12 | 人形劇 | 文化財課 |
| 12/14 | クリスマスコンサート | 文化財課 |
| 12/14 | 南方遺跡発掘調査現地説明会 | 文化財課 |
| 12/21 | 埋蔵文化財講座遺跡が語る岡山の歴史第５回 | 文化財課 |
| 12/21 | リズム遊び | 文化財課 |
| 1/9 | 第２回社会教育委員会議 | 生涯学習課 |
| 1/12 | ２０１４年新成人の集い | こども企画総務課 |
| 1/12 | 第５０回岡山市クロスカントリー大会 | スポーツ振興課 |
| 1/13 | 第１１回川相昌弘杯少年野球交流大会 | スポーツ振興課 |
| 1/13 | 子ども会新春かるたとり大会 | こども企画総務課 |
| 1/14 | いきいき学校園づくり（平井幼稚園） | 指導課 |
| 1/15 | いきいき学校園づくり（高島小学校） | 指導課 |

| | |
|---|---|
| 曽田委員 | ○　南方遺跡からはどのようなものが出てきたのか。 |
| 文化財課長 | ○　南方遺跡は，済生会病院が国体町に新しい建物を建てるということで，一昨年前から発掘調査をしていたものだ。遺跡の中心は２，２００年くらい前の弥生時代の集落遺跡である。今までにも２回，現地説明会を行っているが，今年度で事業が完了するため，成果を市民に公開した。弥生時代の集落なので，竪穴式住居や井戸，建物の柱などがたくさん出てきた。弥生時代の土器・石器・木の道具として楽器の琴などが出てきており，それを公開した。その一週間後に発掘調査を終了し，無事現場作業は完了した。 |
| 曽田委員 | ○　竪穴式住居の保存はできないと思うが，映像等は残すのか。 |
| 文化財課長 | ○　基本的には開発のための調査なので，国家的見地から見て国の史跡に相当するようなものが出れば別であるが，記録として残すのみになる。行政的な作業としては，出てきたもの図面や遺物を保管しながら，来年度，発掘調査の報告書を作る。引き続き，客観的な記録作業に移る。 |
| 委員長 | ○　千足古墳も市民向けの説明会があったのか。 |
| 文化財課長 | ○　造山古墳の随伴古墳である千足古墳の石室のレリーフの板が傷んでいることは４年ほど前に教育委員会に報告したと思うが，教育委員会としては，石しょうのある古墳を保存・活用していく事業に取り組んでいる。その一貫の発掘調査で，レリーフのある石室の隣にもう一つ同じようなものが発見され，マスコミにも大きく取り上げられた。古代の吉備と九州との交流の様子が具体的にわかってきた。石室には入れないが，２月１日には，市民にも現地を公開する予定だ。 |
| 東條委員 | ○　今回の社会教育委員会議の主な議題はどんなものか。また，新成人の集いに関して，参加者から何か今後に生かすことができるような感想・提案はあったか。 |
| 生涯学習課長 | ○　主な議題は，図書館の在り方の素案について。その中では，開館日の問題，中学生による読み聞かせの提案，公民館の図書コーナーの充実，学校図書館との連携について意見をいただいた。<br>　２点目は，家庭教育支援のための取組について。社会教育委員会議で「家庭教育の向上に向けての方策について」の提言を出しているので，今後，家庭・学校園・地域団体・社会教育施設，ＮＰＯ等にＰＲしていく方法や意識を醸成するやり方について，また，学習機会を提供する際の家庭教育アドバイザーを地域に派遣して，共に家庭教育について学び合ったらどうかという意見をいただいた。<br>　３点目は，地域コーディネーター事業について。地域と学校をつなぐ地域コーディネーターを派遣する事業があるが，取組が進んでいかないので，何かいい方法がないか議論していただいた。まずは，取り組みが進むように，良い事例のＰＲに努めることが第一ではないかという意見をもらった。以上３点だ。 |
| こども企画総務課課長補佐 | ○　新成人の集いは，実行委員会形式でやっており，終わった後も実行委員会を開いている。実行委員からは，「参加者がたくさん入ってもらえるような工夫したい」「今後も実行委員形式でできたらよい」「岡山に残るか残らないかを投票してもらった模擬選挙とペットボトルキャップを集めてワクチンをという企画は良かった」という意見があった。参加者からの意見はまとめていない。 |
| 委員長 | ○　参加人数は５，３００人とのことだが，新成人の人数は何人か。 |
| こども企画総務課課長補佐 | ○　約７，０００人だ。 |
| 曽田委員 | ○　いろいろな工夫をしており，我々も楽しませてもらったが，参加者から意見やアイディアを聞いたりして，実行委員にフィードバックすることも必要だと |

| | |
|---|---|
| | 思う。 |
| 委員長 | ○　こども会新春カルタ大会とは，どういうものか。 |
| こども企画総務課課長補佐 | ○　こども会が中心にやっているもの。幼児・小学校低学年は個人戦。高学年は３人１組で格言などをカルタにしている迫力のあるものだ。約２００名が参加した。 |
| 委員長 | ○　優勝者は表彰するのか。 |
| こども企画総務課課長補佐 | ○　そうだ。 |
| 曽田委員 | ○　クロスカントリーは参加者が多い。走ることに興味がある人が多いことが伺われるが，今後，開催予定の岡山のマラソンとは競合せず，共存・共栄できるのか。 |
| スポーツ振興課長 | ○　平成２７年に実施を予定している岡山マラソンと競合することはないと思っている。 |
| 委員長 | ○　本年度のいきいき学校園づくりはいつ頃まで行うのか。 |
| 指導課長 | ○　２月中頃までだ。ほとんど終了している。 |
| ７　協議等 | |
| 委員長 | ○　「こらぼミーティング」について説明願う。 |
| 教育企画総務課長 | ○　「こらぼミーティング」は，広がる教育の輪～広報広聴活動の充実事業～として体系化しているものの広聴の部分に当たるものである。<br>今年から教育広報紙「こらぼ」を発行したり，昨年後半からは，教育委員の活動状況をホームページに積極的に掲載したりするなど，一定の進捗がなされている。広聴活動では，いきいき学校園づくりやフォーラムの開催は行っているが，議会からも教育委員会会議に現場の意見がどのように取り上げられているのかが問われることも多い。これは，国で教育委員会制度の在り方について見直されていることも一つの大きい要因だと思っているが，広報に対応する広聴の部分のさらなる充実が必要であると考えており，岡山っ子育成条例に示す四者の協働の中でのミーティグとして，こらぼミーティングを提案させていただきたい。<br>目的は，教育委員が家庭・学校園・地域・事業者・有識者等からの声を積極的に聴取して，本市の子どもや子どもを取り巻く教育の現状や課題について把握していただき，教育委員会会議の議論や政策・施策の決定，執行状況についての点検・評価に生かすことを目的としている。今までのいきいき学校園づくりへの参加とは違ったアプローチになる。授業やイベント等とは違った視点で学校やその他の教育施設を見ていただく。<br>特に，学校以外の施設がどのように自立する子どもの育成に関わっているのかという部分が弱かったので，そうしたことも，教育振興基本計画を評価していただく視点の一つになると考え，今回，こらぼミーティングは幅広に設定している。<br>教育委員会制度改革について，与党でも反対意見もあったりするなど，今後，国の協議がどうなっていくか不透明であり，簡単に決まる様子も見えないが，いずれの案になっても，今後，教育委員会には政策施策の体系化・立案・評価がさらに詳細に求められるようになると思っている。そういった意味で様々な視点から広聴活動を展開していただく中で内容を３本考えている。<br>１点目は，既存のものを活用して意見交換を行う。２点目は，実際の教育活動に参加・参観する。３点目は，昨年度まで行っていた岡山市の教育を語る会。本年度の実施したフォーラム等に該当するもので，教育委員と学識経験者が意見交換する。これら３つの内容をあわせて「こらぼミーティング」と考えてい |

| | |
|---|---|
| | る。<br>　原則，聞き取ることだが，同時に，その場で教育委員・教育委員会としての思いや考えを発信していただく，広報していただく場となればよいと考えている。<br>　便宜的に，できるところから，また各課の意向を考慮して３ヵ年の計画を立てているが，対象として考えられる行事は多数ある。固定化されることなく，裏面の活動等も視野に入れていただきながら，フレキシブルに対応していただきたい。計画しているすべての行事に教育委員全員が参加していただくわけでなく，参加する行事等の総量を大きく変えることなく，交代で参加していただくように調整して実施できたらと考えている。<br>　実施上の留意点としては３点考えている。１点目は，対象のとして，家庭・学校園・地域・事業者があるが，この条例に基づく四者との意見交換のうち，事業者を対象としたものが少ない。今後，事業者団体と連携しながら発掘していきたいし，既存の行事に事業者に参加していただくという視点を持てば，事業者にも負担なく参加していただけるのではないかと思うので，そうしたことも検討していきたい。<br>　２点目は，実施計画を踏まえながら，より効果的になるよう，弾力的な運用を行いたい。限られた機会の中で，いかに効果的に公聴活動を行っていくかという視点で，各課と連携してさらなる業務の発掘に努めたいと考えいている。<br>　３点目は，学校園に限らず，教育機関の多面的な情報を得られるように，各課への案内や訪問先の募集も行いたいと思っている。また，指導主事など，現場と直接関わっている事務局の職員や教育機関の職員との懇談会を行うことで，現状や課題について，直接，聞き取っていただく。管理職ではなく現場に主に入っているメンバーと懇談してほしい。<br>　以上，教育委員会の広聴活動としてこらぼミーティングの実施を検討しているので，今回ご意見をいただいた上で，改善して示したい。目的の内容等，実施の方向性はこれでよいか。具体的なことについてご意見はないか。 |
| 委員長 | ○　質問はあるか。 |
| 東條委員 | ○　事業者の方との連携が少ないということだが，副案もしくは何かイメージはあるか。 |
| 教育企画総務課長 | ○　これといった具体的なものはないが，例えば，事業者の中で子育ての研修をしてほしいとう意見等があった場合，事業所に指導主事が出向いて子育てについて話をする。そこに教育委員も参加するというのは新たな形。それと，中学生しゃべり場など,子どもが意見表明をするような場に事業者に来ていただき,将来の働き手になる子たちがどう考えているのかを見てもらう場に，教育委員も入って意見交換してもらう。これは，既存の事業を改善する形だ。事業者に提案しながら，組みかえたり，新たに起こしたりできたらよいと考えている。 |
| 東條委員 | ○　学校と事業者に直接的に関わることで思い浮かぶのは，中学生の職場体験。その総括を通して，こういう行事とマッチングさせることができるのではないか。学校にもあまり負担が増えないように，今やっていることを生かせば，事業者の負担も増やさずにできるのではないかと思うので，可能であればその方向で検討してはどうか。 |
| 曽田委員 | ○　事業者は忙しいと思うが，青少年の教育について考えている部門もある。教育委員会がそこの行事に相乗りするのはどうか。例えば，事業者主催の講演会に教育委員会も共催させてもらい，保護者に広く呼びかけるというコラボの仕方があるのではないか。すぐできるのは，中学生のしゃべり場であろう。さらに，２６年度であれば，命を育む授業などは，次世代を育てるという点で関連していると思うので，そこに事業者にも参加してもらってはどうか。 |

| | |
|---|---|
| 教育長 | ○　個人に当たるケースと，ＪＣなどの組織に働きかけをしていくことも考えられる。ＪＣの主催する講演会や独自の取り組みなどで，一緒にできることを探っていくことは可能であると思う。 |
| 曽田委員 | ○　今後の行事は，「こらぼミーティングの教育施設訪問」「こらぼミーティングのＰＴＡ研修」というという名前で呼ばれるようになるのか。 |
| 教育企画総務課長 | ○　教育委員からの見方としての名前なので，学校がやっている行事に，こらぼミーティングとして参加していくという形になる。広聴の在り方として，こらぼミーティングを考えていただきたい。 |
| 委員長 | ○　せっかく「こらぼ」という広報紙ができているので，その一貫としてミーティングをつけてもいいのかと思った。 |
| 教育長 | ○　この名称は，ぜひ，浸透させていきたい。こらぼミーティングとしてやっていく中で，各学校からもこういうミーティングをしたいという意見が出てくるとか，施設からもこういう形でミーティングをしたい，こういうことをやっているのでぜひ参加してほしいというキーワードになっていけばよい。 |
| 曽田委員 | ○　説明の中でフレキシブルなという言葉が出たが，希望としては，事務局が間に入らなくても，委員の時間が空いたときに，適応指導教室や公民館に行ってみる。例えば，緑ヶ丘中学校に行ってみたいとなったときに，事務局がいないと行きにくいのか，自由に行っていいのか。 |
| 教育企画総務課長 | ○　この名称の浸透具合によるが，将来的にはそうなるといいと思う。学校も他の施設も準備をするのは大変だ。気軽に普段の様子を見てもらうというのが一番のねらいなので，そうなっていくように周知を図っていきたい。 |
| 東條委員 | ○　学校園は基本的に公開されているので，特別な行事をやっていない限り，身分を明かした上で行っていいはずだ。適応指導教室は同じだと思う。 |
| 委員長 | ○　地域関係で言えば，関連している行事の数は多いが，比較的限られた対象である感じがする。団体として来られている人との関わりしかない気がするので，地域協働学校でのイベントなどに参加させてもらうなど，本当に地域の人の意見を聞く場がほしい。 |
| 教育企画総務課 | ○　実施上の留意点の３番にも書いてあるが，実施案内と訪問先の募集で集めることができればよいと思っている。将来的な着地点は示していないが，教育委員会自体を別の場所で開く，地域の人が参加しやすい時間に開くなど，そうしたことも視野に入れながら考えていきたいが，まずは，既存のものの中で何ができるかというところから始めて，模索していきたい。 |
| 委員長 | ○　教育広報紙「こらぼ」を２回発行してみて，市民の方から寄せられた意見にはどんなものがあったのか。 |
| 教育企画総務課長 | ○　「イラストもかわいやすくて読みやすい」という意見が多い。「１回ワンテーマで情報を詰め込みすぎていない。１つのテーマに詳しい情報が込められているので，いろんなことがわかって良い」「全国情報誌と違って岡山市独自の実態が書かれているので良い」「岡山の教育の具体的なものが見えてありがたい」というような意見があった。これからの課題だが，１回目の発行のときに家庭学習のポイントを掲載したところ，そのポイントを自分の子どもにも守らせてみたいという意見もあって，教育委員会として各家庭にお願いしたい主張点を大切にしていく必要があり，こらぼも責任重大だということを感じた。 |
| 曽田委員 | ○　「こらぼ」は，新聞のちまた欄にも取り上げられていた。 |
| 教育長 | ○　内容的には好評だ。具体的にわかる，どういうところに気をつけて教育をしているかわかるなど，多くは肯定的な意見だが，紙面の大きさについては色々ご意見があるようだ。 |
| 曽田委員 | ○　インターネットを見ない人も，見ることができない人もいるので，お金は少しかかるかも知れないが，紙ベースはありがたい。 |

| | |
|---|---|
| 委員長 | ○　それでは，こらぼミーティングについては，その方向で進めてほしい。 |
| ８　議事の大要 | |
| 委員長 | ○　１月定例岡山市教育委員会を開催する。 |
| 委員長 | ○　本日の傍聴希望者は５名。入室してもらってよいか。 |
| 全委員 | ○　＜承認＞ |
| 委員長 | ○　日程第１，会期は本日１日限りとしてよいか。 |
| 全委員 | ○　＜承認＞ |
| 委員長 | ○　日程第２，１２月定例会の議事録に問題はないか。 |
| 全委員 | ○　＜承認＞ |
| 委員長 | ○　日程第３，教育長等の報告，事業報告について質問はないか。<br>（会議録６「教育長等の報告」に記載） |
| 委員長 | ○　日程第４，協議等<br>（会議録７「協議等」に記載） |
| 委員長 | ○　日程第５，第１号議案について説明願う。 |
| 指導課長 | ○　説明（第１号議案の資料に沿って説明） |
| 委員長 | ○　質問，意見はないか。 |
| 曽田委員 | ○　教科で今年予定されているのは，国語・算数・数学のようだが，理科については，隔年実施になるのか。 |
| 指導課長 | ○　理科は，３年に１回の実施で，平成２７年度に予定されている。 |
| 曽田委員 | ○　教科の問題は毎年内容が違うと思うが，児童生徒の質問紙と学校質問紙の調査の内容は毎回同じなのか。 |
| 指導課長 | ○　少しずつ違うが，よく似ている。 |
| 曽田委員 | ○　方向性は同じということか。 |
| 指導課長 | ○　そうだ。 |
| 委員長 | ○　児童・生徒質問紙調査は以前からあったものか。 |
| 指導課長 | ○　平成１９年度の開始のときからあった。 |
| 委員長 | ○　経年変化も調べられるということか。 |
| 指導課長 | ○　経年変化は見ることができる。 |
| 委員長 | ○　参加するかどうかについての意見はあるか。 |
| 東條委員 | ○　今まで，岡山市として参加することに意義があると考えたので参加していたのだと思うが，どのような効果があったと考えているのか。今までの総括，背景を説明してほしい。 |
| 指導課長 | ○　岡山市の全体的な傾向・学習の傾向が見えてくる。それぞれ設問ごとに分析をすると，こういったところが課題だということがはっきりわかる。それについて，どうするかを考えて改善していく。課題がわかり，手立てが打てるということが一つある。学校にとっても，調査を活用することで，それぞれの子どもの状況や学校全体の状況を見ながら授業改善に役立てていくことができる。結果だけではなく，結果から導きだした成果・課題・改善策が大事であり，今までも授業改善プランを各学校が示し，研修等で交流しながら役立てている。そうした部分でテストの活用は意義がある。 |
| 教育長 | ○　例えば，具体的に教育委員会はどのような施策を行ったのか。学校はどういう事業づくりにしていったのか。個々の子どもや学校，市教委はどういう動きになったのか，一つの例を挙げてほしい。 |
| 指導課長 | ○　調査の結果を分析し，中学校区内の小学校と中学校がつながりを持ちながら取り組んでいる学区はたくさんある。<br>市教委としても，結果を受けて，研修講座の中で，問題から出てきた課題に |

| | |
|---|---|
| | ついて授業改善案を提案し，研修の中で実際やってみたり，いきいき学校園づくりの中で生かしたりしている。<br>　また，放課後の学習時間が少ないことがわかったことで，習熟度別サポーターを取り入れ，放課後学習の充実を図ったり，放課後だけではなく，個々の生徒へ対応したりするなど，人的配置についても調査の結果から考えたものだ。 |
| 東條委員 | ○　岡山市の方針にある，教育施策への反映と指導の充実や学習状況の改善について，子どもたちが自分のことを振り返ってどう生かそうとしたかについて，活用例があれば教えてほしい。 |
| 指導課長 | ○　それぞれの学校が分析し，成果と課題を出している。課題の中で，こうした取組をやろうということを打ち出している。例えば，家庭学習の時間が少ないという結果になった学校については，家庭学習の充実のために，学校・家庭・地域が連携しながら，家に帰ってからの家庭学習の時間を記録し，後に生かすようなことをしている。子どもたち自身が意識できるように，それぞれの学校が取り組んでいる。 |
| 橋本教育次長 | ○　テレビやパソコンに費やす時間が長い学区では，オフメディア・デーを実施し，幼小中が連携して視聴時間をコントロールできるような習慣付けをしていこうという取組を行っている。その結果，比較的受身的にテレビ等を視聴していたものが，自分で選んで視聴することができるような状況が増えてきたという事例がある。 |
| 曽田委員 | ○　家庭学習が多ければ学力がつくというのは，仮説を立てれば，そのとおりになるだろう。どのようにすれば家庭学習が深まるかを共同で研究するようなことはしているのか。そうしたことが，学校現場や保護者にとっては有効ではないか。<br>　例えば，読書をたくさんする人は学力が高い，家庭学習をする人は学力が高いので，それをしましょうというスローガンは言いやすいが，それでもできないところがあるのではないかと思っている。 |
| 審議監（学校教育担当） | ○　家庭学習の時間については，確かに短いという傾向があり，何とかしたいと思っている。教育委員会としても，家庭学習の手引きを作成し，良い取組をしている学校を紹介するなどしている。<br>　また，教科調査官に研修に来てもらい，結果の分析の仕方や生かし方について講義をしてもらっている。例えば，誤答の類型に着目し，つまづいている箇所に応じた指導方法や，この部分を改善していけばより良くなるのではないかという話をいただき，参考になった。 |
| 曽田委員 | ○　そういうことが必要だ。活用がどのぐらい進んでいるかが一番気になるところだ。以前聞いた話で，授業の週末で，次の時間に生きてくるようなまとめ方をする先生と，そうではない先生がいて，おそらく，そうしたことも家庭学習の時間ややり方，質に影響しているのではないかと言われていた先生がいた。そうしたことを地域協働学校で研究するなど，具体的なことをアドバイスしたり，アイディアを示したりするような活用方法も必要なのではないかと思う。<br>　もう１つ，施策への反映に関してだが，習熟度別サポーター等は予算を伴うものか。 |
| 指導課長 | ○　そうだ。 |
| 曽田委員 | ○　テストの結果に基づいて，見えるかたちで施策が変わり，予算も反映しているということを知れば，現場も元気が出ると思うので，そうしたことも学校現場や，我々にも知らせてほしい。 |
| 教育長 | ○　習熟度別サポート事業は，昨年まで少人数の 10 人以下の取り出しで，授業中にやっていたものだ。それを，放課後の補習学習にも活用できるようにした。 |
| 曽田委員 | ○　見えるかたちが望ましい。これは希望者だけか。 |

| | |
|---|---|
| 教育長 | ○　基本はそうだが，教師から働きかけをしながらやっている。 |
| 曽田委員 | ○　放課後に，サポーターが援助してくれたらありがたい。 |
| 教育長 | ○　ただ，放課後に行うとなると，下校中の安全面をどうするかをセットで考えないといけない。 |
| 委員長 | ○　放課後や下校中，家庭に帰ってからのつながりが大切だと思うが，保護者には学力テストの結果をどう伝えているのか。 |
| 指導課長 | ○　個人票を返却しているので，自分の子どもの状況はわかる。また，学校ごとに結果をまとめ，学校だよりや学年だよりで示している。保護者会等での説明もあるだろうし，中には，ホームページに掲載しているところもある。様々な手段を使いながら，全体的な学校の傾向について示している状況だ。 |
| 委員長 | ○　個人票は煩雑で見にくいというのがあったりするので，説明も必要だろうし，一方通行ではなく，保護者からの意見も聞けるような機会も活用してほしい。<br>　放課後のサポートで帰りが遅くなるということであれば，保護者への説明もしなければいけないと思うが，どうしているのか。 |
| 指導課長 | ○　いきなり放課後に残すということにはならないので，事前に連絡を入れておく。地域の方に交通安全サポーターとしてついていただいており，その時間帯との関係もあるので，残す時間が難しい面もあるが，学校として工夫し，少しずつやってきているようだ。 |
| 東條委員 | ○　これまでのやり方の総括について説明があったが，副作用のようなものはないか。こういう点が意図しないかたちで使われたというような，マイナス方向の結果は聞いたことがあるか。学力テストに対して賛成できないという意見もあるのではないかと思うが，そうしたことを現場から聞いたことはあるか。 |
| 指導課長 | ○　学力テストを実施することの負担は当然出てくる。1日がかりの実施であり，教員としても，事前に送付されてくるものの確認や，答案用紙回収等の負担がないわけではない。 |
| 東條委員 | ○　そうしたコスト的な部分と効果を比較して，効果があるので，来年度もやるという話なら良いが，そこを総括した上での比較がないと賛否は決めることはできない。学校の負担はあるが，それ以上に効果があるので参加したいという説明であろうかと思うが，教育委員会でも話題になっているように，学校の授業時間が足りず，土曜日授業を実施するなど，授業時間を捻出しなければいけない現状がある中で，学力テストに時間を費やすだけの意味があるという説明が成り立たないと，参加するという結論にはなっていかない。<br>　今の説明を聞く限り，学校では学力テストを受けて様々な工夫をしているが，家庭との連携に関しては，社会教育委員会議から提言のあったような家庭教育支援という枠組みともう少し連携できないかと思ったりもする。そういう面では，少し課題があるのではないかと思う。プラスの部分と，マイナスの部分とを比較すると，改善という方向が見えやすくなるので，参加した方がよいという提案だと理解してよいか。 |
| 指導課長 | ○　そのとおりだ。学力テストの問題は，良い問題であると思う。いろいろな分野で，いろいろなことが結果として表れてくる。そうしたことを強調しておきたい。 |
| 東條委員 | ○　目的とやることが乖離しないようにしてほしい。例えば，順位を上げるために，学力テストのための模擬テストをやるというのは邪道だと思う。授業なり，学び方なり，家庭への関わりなりを変えていくための一つの見方として提供できる資料として使うのはいいが，点を上げる，順位を上げることを目的とすると，上がった方が良いに決まっているが，ややもすると，目的と方法がずれていってしまうこともあるので，ずれないようにしてほしい。<br>　公表についても，今後，学校と相談して考えていかなければいけないことだ |

| | |
|---|---|
| | ろうと思うが，毎年総括して，このテストはやったほうがよいのか，きちんと見直しながら決めたほうが良い。文科省から言われたからやるというのではなく，岡山市にとって意味があるからやるというように決めていくことが必要。総括しないで惰性で実施するのはだめだ。長く続くと，そうなりがちなので，どこが良かったのか，どういうところが使われていたのか，どういうところに反作用が出ているのかなど，丁寧に情報を集めることが必要だ。 |
| 曽田委員 | ○　この学力テストは悉皆が全国ではベースになっているが，このテストをきっかけにして，教育委員会の在り方や学校現場が変わるような総合的な動きができるのが一番良い。具体的に言えば，今は指導課が動いて学力を上げていくことがメインとなっているが，先ほど東條委員が言ったように，家庭学習は社会教育とも関わる，コミュニティスクールなどの地域協働にも関わるなど，結構幅が広い。<br>　学力テストを介在させて，子どもの育ちや親，地域の育ちにまで応用するなら意味があるし，価値があるのではないかと思う。子どもたちの不登校や問題行動も学力と関係する。また，地域の中でのサポートのされ方にも関係するだろうし，テストをきっかけに，家庭学習の在り方や地域の在り方，見守りの在り方まで横断的に考えることができれば，テストをする価値はある。<br>　もう一つは縦のつながりとして，小学６年生で受けた学力テストと，その子どもが中学３年生になったときに受けた学力テストを比較して，基礎力と応用力でどんな変化が見られたかという経年変化を見てみたいが，そうしたことは，いきいき学校園づくりや地域協働学校の中でできつつあるのか。 |
| 指導課長 | ○　実際に，小学校６年のときの状況とその子たちが中学校３年生になったときの状況を比べて分析をしているところもある。どのように育ってきたかを見ている学校もある。 |
| 曽田委員 | ○　こうしたらどうか，という提案なども，いきいき学校園づくりの中で行えば授業が縦に揃う。１年間で全部の力をつけるのは無理なので，３年間を見通して活用できればよいのではないかと思うし，学力観を変える意味では，この学力テストは有効であったと思う。実際にどのような問題に答えることができたら，力がついているかというのは，一般市民や保護者，場合によっては，学校関係者もイメージがつかなかったところがあるかも知れないが，学力テストによって，今後，子どもたちに必要な力として，考える力や問題解決力，思考力など大切であるということがわかったことは，学力テストの問題が公になることで広がったと思う。<br>　基礎力と活用力とあいまって，子どもの学力になるという学力観が広がったことは，テストを実施して良かったことの一つではないかと思う。役所も学校も学力テストをきっかけに，総合的に考えてほしい。それが，子どもにとって役立つことになる。 |
| 委員長 | ○　良く考えられた問題であるならば，岡山の子どもたちには受けさせてあげたい。受けてもらうならば，真剣に向かいあう環境づくりを作っていくことが必要だ。<br>　今回，結果の公表ということになり，岡山市全体・学校全体という捉え方をしがちだが，ねらいにもあるように，児童生徒一人一人がどのように改善していくか，どうやって力をつけていくかが目的なので，そうした基礎的な考え方に立って取り扱っていただきたい。今日，マスコミの方がこれだけ傍聴に来られているのは，関心があるからだ。こうしたことをきっかけに，子ども一人一人に対して，どのように考えてあげることができるかというきっかけになればよいと思う。 |
| 東條委員 | ○　これまでの使われ方に関してだが，短期的には，今年度どのようにやってい |

| | |
|---|---|
| | こうかとういうような学校の授業改善や指導などが課題になるが，小学校６年生が中学校３年生になったときにどうなっているかとういことについて，中期的な改善効果を検証しているような中学校区はあるのか。なければ，してみてもいいのではないか。<br>　小中連携の話が出ていたが，地域で学んでいくことを考えれば，そうした中期的な扱い方を示せるような使い方であってもよいのではないか。例えば，この子たちはここが苦手なので，それは中学校でも引き続きやってきましょうというように，連動した形で使われれば，活用の効率という意味で良いのではないか。活用のされ方が限定的な気がするので，中期的な視点で使ってみても良い。<br>　参加するかどうかに関して言えば，確かに，問題の中身や正答率を見ていて，いろいろなことがわかる調査であると思うので，意図しない使われ方さえしなければ，それはそれでよい。<br>　活用の仕方に関しては，施策というような形で，現場に対して教育委員会事務局からフィードバックするほうが，せっかくやっていることがより活用できるのではないかと思う。 |
| 教育長 | ○　平成１９年度から開始され，途中，抽出の時代があったが，継続的な形でやっている。小学校と中学校へどのように伸びてきているかについては，小中で比べている学区もあるが，全部ではない。それをやっていくことが，岡山市の小中一貫教育ということになる。そのためには，分析力を高め，課題を見つけて全市に発信していくことが必要だと思っている。<br>　もう１点は，これまで参加をしてきた理由として，一定の学力と健全な成長を子どもたちに求めていかなければいけないということがある。それは，義務教育として当然だ。そのためには，評価することも必要である。例えば，中学校なら学期の中ごろや期末の定期考査があるが，単に個人の成績をつけるための評価になってしまったのでは意味がない。いかに次の授業改善や子どもの意欲づけにつなげていくかが重要だ。<br>　そうした面で，この学力テストは，全国的にもインパクトを与えたと思っている。結果が出たから良いというのではなく，次にどう生かすのかということを，市としても学校としても個人としても考えなければいけない。それが，一つのサイクルにならないと，本当の学力アップにはならない。現場の先生には，４月の忙しい時期に，１日５時間もかかる上に，配って集めて確かめてという負担感はあるかもしれないが，ある程度の継続性をもってさらに分析し，小中を結び付けていくことを考えれば，結論から言えば，一定の評価基準となる学力テストには参加すべきだと思う。<br>　その上で，結果の示し方についても，子どもたち自身がどう改善していくか，ここを頑張らなければいけないと思うような，一層の意欲につながるような公表の方法が必要だ。公表といっても誰に対する公表かというのもあるが，子どもたちがその気になる，学校も頑張っていかないといけないと思えるような示し方にしていかなければいけない。 |
| 委員長 | ○　今日は，学力テストに参加するかどうかについてのみ決定するということでよいか。 |
| 指導課長 | ○　そうだ |
| 東條委員 | ○　結果の示し方案についてだが，個人に示すのはもちろんのことだが，改善プランについて，今までは学校で作成して示しているが，教育委員会事務局として，こういうやり方があるのではないかとういうような一つの考え方や岡山市全体の方向性を示す必要もあるのではないか。学校はそれを受けて考えれば，ベースができるので考えやすい。丸投げではなく，事務局としての考えを示す |

| | |
|---|---|
| | べきである。こちらの責任・関わりの度合いが問われている。提案などをつけて返してもよいし，あるいは，それを読み取りやすいかたちで返すことが必要ではないかと思う。「今後の改善方策について」という部分に一番力を入れて，フィードバックしてほしい。教育委員会の方針として，学校に対して示すことに加え，こういう子にはこういう指導をしたらどうかという学習状況の改善についてもセットで示すこともしていただきたい。改善プランは学校が示すことになっているが，教育委員会事務局としても，このようにしてはどうかという提案をしてほしい。<br>事務局職員には，学校におられた方もおり，学校に近いかたちで提案できるはずなので，違った視点を持っている仲間からの提案として行ってほしい。データの読み方だけでなく，そこからどのように授業を変えていくのか，どう子どもに関わっていくのかについては，データを読む専門の大学の教授より，教育委員会事務局にいる先生方のほうが経験もあり，よくわかっていると思う。もう少し具体的なことを考えるときは，そうした内容も入れるように考えてほしい。 |
| 曽田委員 | ○　参加することには賛成だ。ただ，今年から違うのは，配慮事項を示されているということで危惧されることでもあるので，公表の内容や仕方には工夫がいる。学校現場も，テスト当日の負担よりも，その後の改善策を考えることの方が大変だと思う。<br>ひな型で決めてしまうと，学校独自でやりたい場合もあるだろうが，誤答の考え方や白紙回答の考え方などの根拠は，はっきり示したほうが良い。現場だけで考えると立ち行かないことがあるので，そうした面では時間の軽減を図ったほうがよい。<br>学力テストと同等の問題を個々の先生が考えるのは大変なので，それは活用すればよい。考え方として，テストがあるから仕方なく参加するのではなく，教育委員会としては，横断的に子ども一人一人が成長するために使う。学校現場では授業改善に使う。<br>同じ悉皆調査でも，展開が少し変わってきているので，もう一度，仕切り直して考える時間がいると思う。 |
| 東條委員 | ○　今年度は，文科省からいつ頃結果が返ってきたのか。 |
| 指導課長 | ○　８月の終わりだ。 |
| 東條委員 | ○　学期が始まった後に結果が返ってきたらどうするのか。地域によっては，盆明けで学校がはじまるところもある。学期が始まると，作業する時間が取れないのではないか。結果の返却の時期を早くしてもらわないと，考える時間も取れない。<br>可能なら，文部科学省に結果の返却を７月中にするということを要望しても良いのではないか。腰を据えて考える時間は夏休みぐらいしかないので，結果の返却を早くしてほしいという要望を出しても良いのではないか。 |
| 教育長 | ○　学力テストが始まった当初はもっと遅く，１１月頃であった。その際に，もっと早くしてほしいという要望をしたことがあるので，そうしたことはできると思う。 |
| 審議監（学校教育担当） | ○　最初の年は，秋も深まったころに結果がきた。どうやって子どもたちにフィードバックしていくのかという意見が各教育委員会からあり，文科省に要望を出した結果，８月に前倒しになった。確かに，もっと早いほうが良いと思うことがある。 |
| 東條委員 | ○　それならば，要望することは可能なのではないか。 |
| 教育長 | ○　岡山市の教育委員会としてはこうだという思いを伝えていけばよい。 |
| 審議監（学校教育担当） | ○　一番早いときでも，８月２０日頃であった。 |

| | |
|---|---|
| 東條委員 | ○　今年から公表に関してガイドラインが変わっていることを前提で考えると，より良くフィードバックするためには，早く結果を返却してくれないといけないということは，このタイミングでないと言いにくいのではないか。<br>　岡山市が単独で要望するべきか，県教委と一緒になって要望するべきなのかわからないが。 |
| 曽田委員 | ○　もし，合わせて要望ができるなら，４月より，５月の半ば過ぎの実施がありがたい。学校では４月はスタートの時期でやることがたくさんある。遅くして早くするのは事務的に難しいかも知れないが，かなり定着してシステムが動くなら，できないこともないのではないか。<br>　岡山市ではそういう時期ではないかも知れないが，修学旅行でできない学校もなくなるだろう。１～２週でも遅ければ，学校現場はありがたいのではないかという気はする。 |
| 指導課長 | ○　参考にお伝えすると，平成２１年３月に，岡山市教育委員会教育長名で文科省へ実施内容の改善ということで，学力テスト実施後，３か月以内に結果を返却してほしいという改善要望を出している。 |
| 東條委員 | ○　やり方が一部変わってきており，それを活用するためには，やはり３か月以内の返却が必要だという要望をもう一度出しても良いのではないか。これからどのようにフィードバックをするかというのは検討していくが，より丁寧にするという方向で実施することに変わりはない。丁寧に行うためには，それなりに時間が必要だ。２学期に使おうと思えば，どんなに遅くても８月の初旬には結果を返却してらわないと，先生もじっくり考える時間がないのではないか。これについては，このタイミングでもう一度要望してはどうか。 |
| 教育長 | ○　そうしよう。 |
| 東條委員 | ○　平成２１年度に要望を出した３か月という期間は，国からそれくらいの作業期間がいるという話があってのものか。 |
| 教育長 | ○　なぜ３か月という期間を示したかについては覚えていない。 |
| 橋本教育次長 | ○　最低どのくらいの期間があればできるという知識が特にあったわけではないと思う。採点して，分析して，国として責任をあるものを出すという作業を行う上で，一定の期間がいるとは思う。 |
| 委員長 | ○　せめて，夏休み中というのはどうか。 |
| 東條委員 | ○　できれば，１学期中に返してもらったほうが良い。２学期が始まってからでは，変えましょうということはできない。実質的にできるのは２学期の後半ぐらいからで，結局，半年以下しか使えない。原案は考えていただくにしても，よりよく活用したいので，結果の返却を早めてほしいという要望は，実現できるかどうかわからないが，出すべきだ。自分としては，そういう気持でいる。 |
| 委員長 | ○　教育長，それで良いか。 |
| 教育長 | ○　要望については，その方向で考えたい。結果の示し方については，基本的な考え方に基づき，先ほど，東條委員が言われたように改善プランについても示すべきではないかという点についても踏まえて，再度考えなければいけない。 |
| 委員長 | ○　調査についてはねらいをもって参加と決定したい。公表については，昨年，各学校に出す結果・まとめた冊子を見せてもらったが，非常によくまとめていると思った。配慮する項目の１項目めにあるように，これまでの岡山市の結果の示し方を踏まえるというところで，様々な意見・要望が出たかと思う。そういったことを踏まえて，学校ともよく話し合って，基本的な考え方を検討していただきたい。 |
| 委員長 | ○　第１号議案を原案どおり可決してよいか。 |
| 全委員 | ○　＜承認＞ |
| 委員長 | ○　第１号議案を原案どおり可決する。 |

| 傍聴の状況 | | |
|---|---|---|
| 報 | 道 | ４名 |
| 一 | 般 | １名 |